

令和3年（2021年）の雄阿寒岳の火山活動

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2021年の発表履歴

2021年中変更なし

噴火予報（活火山であることに留意）

○2021年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～2）

7月19日に上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）を実施しました。北側斜面の地熱域には噴気は認められませんでした。また、地形や植生なども前回の観測（2019年7月）と比べて特段の変化はありませんでした。



図1 雄阿寒岳 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）
赤丸は北側斜面にみられる地熱域の位置を大まかに示しています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。

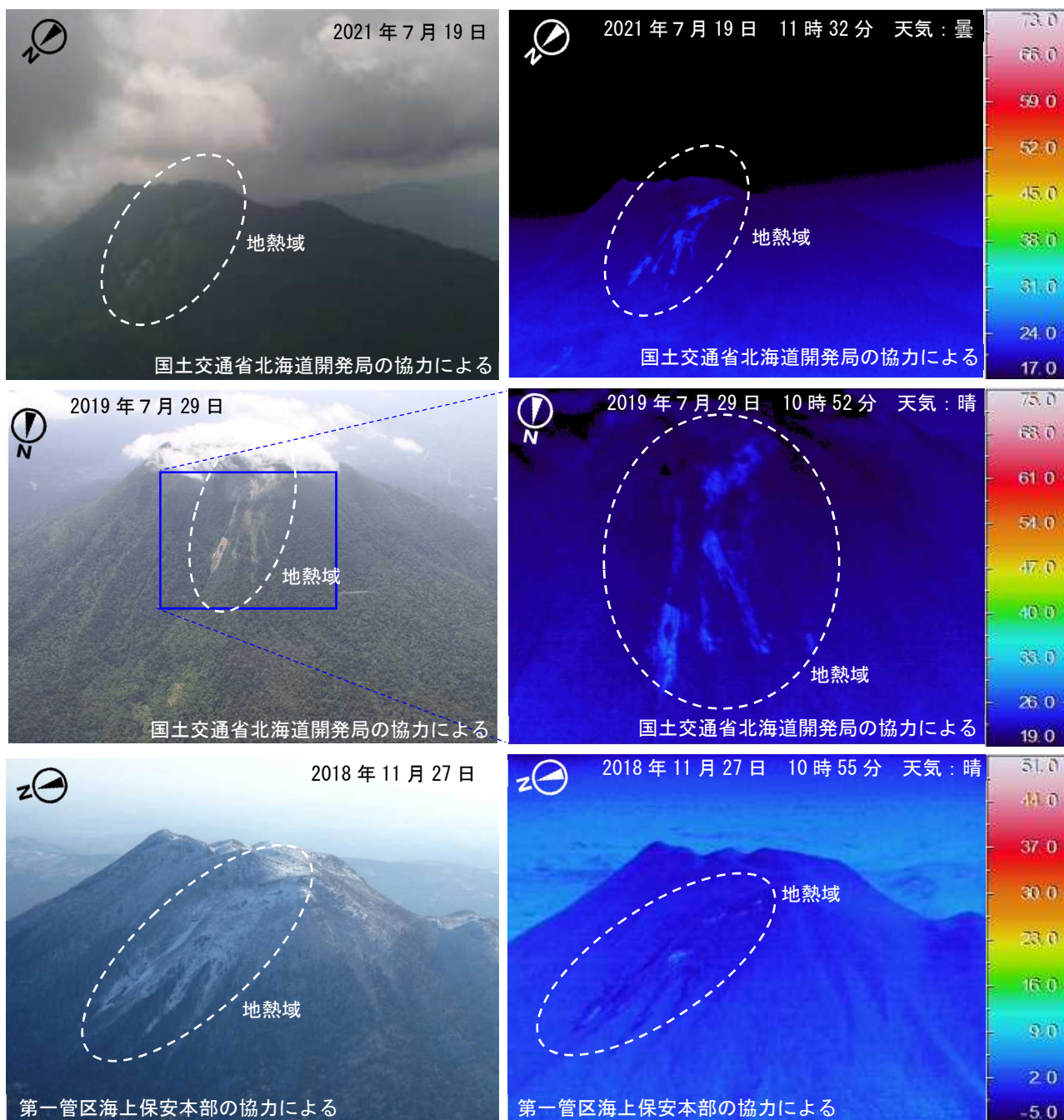


図2 雄阿寒岳 赤外熱映像装置による北側斜面の地表面温度分布

上段：北西側上空（図1の①）から撮影

中段：北側上空（図1の②）から撮影

下段：北西側上空（図1の③）から撮影

- ・北側斜面にみられる地熱域（点線で囲んだ領域）には、日射による影響を超えるような高温域は認められず、過去の観測（2019年7月及び2018年11月）と比べて特段の変化は認められませんでした。